

NO.56

つくば

アグリつうしん

茨城県県南農林事務所
つくば地域農業改良普及センター
〒305-0861
つくば市谷田部3951-5
TEL : 029-836-1109
FAX : 029-836-1816
E-mail : tsunofu@pref.ibaraki.lg.jp

⇒⇒⇒

ホームページはこちら



つくば地域有機農業支援研修会を初開催しました

つくば地域の就農相談は、首都圏へのアクセスが便利で消費者が混住する立地から、収益性の高い農業を志す新規参入者が多いことが特徴です。また、裕福な購買層をターゲットにした有機農業に関心を示す就農相談事例が毎年見られることから、令和7年1月15日につくば市と当センターの共催により「つくば地域有機農業支援研修会」を初開催したところ、農業者や就農希望者33名が参加しました。

研修会では「つくば地域で有機農業を始める際の技術・販売の動向」と題して、いばらき有機農業技術研究会の松岡会長による講演を行いました。松岡会長からは「土壌の構造をよく理解して有機農業に取り組むこと」「健全な野菜を作るには、土づくりが一番大切」「多肥は病害虫の発生を助長する」などのアドバイスがありました。また、県からは県の有機農業推進方針や支援施策等について情報提供を行いました。

グループワークでは、参加者の質問に4名の助言者が回答する形式で意見交換を行いました。参加者からの質問は土づくりを主とした栽培技術や販路開拓に関するものが多く、助言者は自身の経験を交えて丁寧に回答していました。

当センターでは、次回開催に向けて企画立案を進めるとともに、引き続き有機農業の取組みを支援していきます。

【グループワーク助言者】

- いばらき有機農業技術研究会
松岡会長（左上）
- つくばいしだファーム
石田代表（右上）
- (株)ふしちゃん
伏田代表取締役（左下）
- (株)ベルファーム
鈴木農場長（右下）



▲ 4人の助言者による熱心な意見交換

農業人材育成指導者養成講座を開催しました



▲（株）ふしちゃんのほ場見学の様子



▲グループワークの様子

農業界の人手不足は深刻化しており、雇用後の定着率も低い現状となっています。経営の安定には、主体的に仕事に取り組む従業員の育成が課題となっています。

そこで、令和6年7月31日、従業員の定着と育成を目的に、農業法人に勤める方を対象として、仕事における課題解決力やモチベーション向上を目的とした講座を開きました。今回は「主体性をもって働くための考え方」や「目標設定の手法」を学ぶため、組織的な生産体制を組む法人、（株）ふしちゃんの農場長である大友氏を講師として招き、ほ場見学やグループワークを行いました。参加した20名の従業員からは、「今回学んだことを少しずつ職場で役立てていきたい」といった声が聞かれるなど、前向きな姿勢が見られました。

当普及センターでは、引き続き安定的な雇用環境の実現を支援していきます。

令和6年度県南地域農業学園を開催しました

県南農林事務所の3普及センター（土浦、稲敷、つくば）では、新規就農者を対象に、基礎的な栽培技術や経営改善の方法等に関する講座「県南地域農業学園」を開催しています。

令和6年11月14日に開催した「農業資材展示会視察研修講座」では、トキタ種苗株式会社の大利根研究農場オープンデーに参加し、露地野菜や施設野菜の新品種の説明を受けるとともに、農業資材メーカーから土壌改良材や肥料などの情報収集を行いました。受講生は「課題解決に活かせる有益な知識を得られた」と話していました。

来年度の農業学園は、6月頃に開講する予定です。農業者同士の情報交換や仲間づくりの場にもなりますのでご興味ある方は普及センターにお問い合わせください。



▲第11回「農業資材展示会視察研修講座」の様子

～技術情報～ 令和6年産水稻の作柄を振り返る

当普及センターで毎年実施している水稻定点の調査を平均した結果から、令和6年産「コシヒカリ」の作柄について振り返り、今後の対策について考えます。

（※水稻定点：つくば市上菅間、つくば市今鹿島、つくばみらい市中島の3地点）

1. 生育経過（移植後30～80日）

草丈は生育中盤から平年より高い傾向でした（図）。茎数は平年並でした。葉色は生育初期は濃く、出穂期頃（移植後80日）はやや淡い傾向でした。

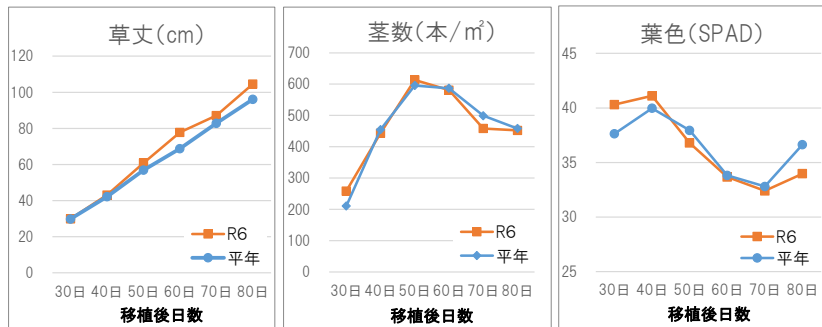


図 移植後30～80日後の生育推移（草丈、茎数、葉色）
注）平年値は過去5年の平均値

2. 生育ステージおよび収量

平均気温が平年より高く、出穂期が平年より3日早まったため、成熟期も早くなりました。収量構成要素（穂数、一穂粒数、登熟歩合、千粒重）は平年並かやや良かったため、収量は平年比102%となりましたが、稈長が長いこと倒伏程度は大きくなりました。

一方、「コシヒカリ」以降に収穫する飼料用米などでは、イネカメムシによる不稔で収量が平年より少ないとの報告も複数寄せられています。

表 収量および収量構成要素

	移植日 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)	同左比 (%)	倒伏程度 (1-5)
R6	5/2	7/21	8/28	95.2	19.7	406	84.7	77.7	20.8	562	102	2.5
平年	5/1	7/24	9/1	92.0	19.0	417	82.4	74.1	20.7	552	(100)	0.6
(参考)R5	5/1	7/22	8/30	90.7	20.1	384	83.9	76.4	21.1	576	104	0.2

3. 品質および今後の対策

出穂期以降の高温により白未熟粒が多発し、当普及管内のJAでは、「コシヒカリ」の1等米比率は数%～20%と低くなりました。品質向上には、中干しや追肥など基本技術の励行は有効ですが、コシヒカリでの対策では不十分となる恐れがあり、高温耐性品種の導入が最も有効です（写真）。

4. その他

当普及センターでは、有機米の取組みを支援しています。有機米実証圃では、自動抑草「アイガモロボ」+水田除草機「ウィードマン」の活用により、雑草発生量を無除草区の5%に抑えられ、所得が慣行より最大で34,282円/10a向上する試算結果が得られています。



写真「にじのきらめき」「コシヒカリ」（高温耐性品種）

農業経営士を新たに認定しました



茨城県では、農業の担い手育成と地域農業の振興をすすめるリーダーを農業経営士、青年農業士として県知事が認定しています。

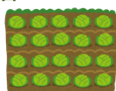






今年度、新たに次の方々が農業経営士として認定を受けましたので紹介します。

<p>農業経営士</p>  <p>つくば市 さくらい たかみつ 桜井 孝充 氏 (営農類型：普通作)</p>	<p>農業経営士</p>  <p>つくば市 せき もとあき 関 元章 氏 (営農類型：普通作)</p>	<p>農業経営士</p>  <p>つくば市 なかむら たすく 中村 将 氏 (営農類型：普通作)</p>	<p>農業経営士</p>  <p>つくば市 ねもと よしさだ 根本 善貞 氏 (営農類型：普通作・露地野菜)</p>
<p>農業経営士</p>  <p>つくばみらい市 すずき まさる 鈴木 優 氏 (営農類型：普通作)</p>	<p>農業経営士</p>  <p>利根町 みやもと としゆき 宮本 季幸 氏 (営農類型：施設花き)</p>	<p>退任者</p>  <p>今年度、農業経営士の文随靖氏、田中茂氏、女性農業士の坂本幸子氏、青年農業士の小辻孝輔氏、横瀬務氏が退任されました。長年にわたり地域の農業振興にご尽力いただき、ありがとうございました。</p>	

生鮮野菜の衛生管理について



生鮮野菜の衛生管理はしっかりできていますか。野菜を生産・販売する際は、水や家畜ふん堆肥、作業者の手などを通じて、野菜が食中毒を起こす微生物に汚染される可能性があります。衛生管理をきちんと行い食中毒事故を予防しましょう。

工程	各工程での対策例
<p>栽培</p> 	<p>【栽培】 ・家畜糞堆肥は十分に発酵したものを使う</p> 
<p>収穫</p> 	<p>【収穫・調整】 ・収穫物に直接触れる農具の使用後の洗浄・消毒 ・収穫容器の定期的な洗浄 ・洗浄時は水道水等の飲用に適する水を使用</p> 
<p>出荷</p> 	<p>【出荷】 ・出荷専用車両を使用。または荷台を良く洗浄し清潔なシートを敷く等、野菜が荷台に触れないようにする。</p> 
<p>全行程</p>	<p>・野菜を扱う作業者の健康・衛生管理 ・作業前、トイレ休憩後、堆肥使用後等の手洗い</p> 

詳しくは下記QRコードから農林水産省の「生鮮野菜を衛生的に保つために」をご確認ください。
衛生管理チェックシートで自身の衛生管理を見直しましょう。

